MGU Chapel Letter

—第 33 号　2024 年 1 月 5 日—　　発行：大学宗教センター

＊2023 年度聖句＊

「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、
行わせておられるのは神であるからです。」
フィリピの信徒への手紙　2 章 13 節

1 月の大学礼拝スケジュール

【12 時 10 分～12 時 30 分　礼拝堂にて】

1 月の礼拝日程（説教者の氏名 ※敬称略）

・1 月 10 日（水）　松本　周（一般教育部准教授）
・1 月 15 日（月）　佐々木　哲夫（学院長・宗教総主事）
・1 月 17 日（水）　風間　義信（日本キリスト改革派仙台教会牧師）
・1 月 19 日（金）　栗原　健（大学宗教センター長）

今年度の大学礼拝は 1 月 19 日で終了となります。注意しましょう。

令和６年能登半島地震の被災者をおぼえて

１月１日午後に発生した能登半島地震は、石川県珠洲市・輪島市等を中心に各地で大きな被害をもたらしました。被災者の方々をおぼえてお祈りすると同時に、各機関を通じて行われている支援活動に積極的に協力しましょう。復興のために、持続的なサポートが必要になります。

【連絡先】　宮城学院キリスト教センター
TEL：022-279-9558　　Email：christ-c@mgu.ac.jp

✤ こころの旅 ✤

クリスマスは終わりましたが、キリスト教の教会や学校では、１月６日の「公現日」までクリスマスツリーを飾っておくことが多いです。

「公現日」とは、「異邦人を含む全世界に、救い主イエス・キリストが示された日」という意味です。教会では、この日はマタイによる福音書２章にある「東の国の博士たち」の物語が読まれることが多いです。イエスが誕生した時、東方の占星術の学者たちが星に導かれてユダヤの地まで旅し、ついにベツレヘムで幼子イエスに出会った…というエピソードですね。

この学者たちは、ペルシアの辺りから来たと言われています。なぜ彼らは、遠い異国から砂漠や荒野を越えてまで、イエスに会いに行ったのでしょうか。

彼らの旅は、実は私たちの心にあるあこがれを象徴しています。

私たちは、多くのものを求めて生きています。自分の能力を社会で活かし、評価されること。他者とつながり、居場所を得ること。生計を立てること。これらを実現しようと、私たちは大学で勉強しています。

けれども、私たちの心には、それだけでは満たされない部分があります。

ありのままの自分を受け容れてくれるもの。社会や人の価値観が変わっても、変わらずに立つことができる生き方の指針。人を愛する心。頭では意識していなくても、私たちはそうしたものを求めながら、人生の道を歩んでいるのではないでしょうか。

そんな時、私たちの心は、実は東方の学者たちのように、イエス・キリストを求めて旅しているのです。

学者たちも、真っ直ぐにイエスにたどり着けたわけではありません。最初彼らは、悪名高いヘロデ王の宮殿に行ってしまいました。けれども、彼らはそこで「聖書によれば、救い主はベツレヘムに生まれることになっている」と聞き、旅を続けます。

礼拝で聴く聖書の言葉は、私たちに、自分の心が求めていることは何なのか、人生において何が大切なのかを考える手がかりを与えてくれます。そうした模索の中で、私たちは進むべき道を少しずつ見出し、イエスと出会って行くのです。

新しい一年も、自分が出会う１つひとつの聖書の言葉を大切にしながら、毎日を歩んで行きましょう。　　（栗）